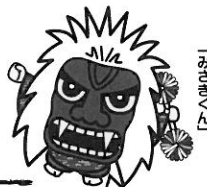


知っちょる?京築

「郷土の名高き偉人たち」



NHKの大河ドラマは「軍師官兵衛」から「花燃ゆ」へ。幕末から近代へ、人と物が行き交う一大拠点であった京築地域にも歴史を彩る偉人たちがたくさんいます。時を越え、ジャンルを超えて、そんな偉人たちの足跡を辿ってみませんか? エッ〜!!と驚くような、人と人とのつながりが見えてきます。

レポーター/ノウサギ

「豊かすの源!ひと!」シリーズ

19人目

「吉富歴史文化の会」会長

おおた さかえ
太田 榮さん

太田榮さんは、数々の歴史名所や文化財等が残る九州最小の町である吉富町で生まれ育ち、旧吉富製菓(株)に勤務した生粋の吉富の人です。1999年に上毛町宇野にある忠臣蔵で名高い赤穂浪士の磯貝十郎左衛門の末裔宅で行われた義士祭で、遺品・古文書等の解説を聞き、往時の情景を想像する世界を古文書が教えてくれる素晴らしさを知りました。2000年に郷土史と古文書の解説がしたくて吉富町文化財協議会(現・吉富歴史文化の会)に入会。2007年から会長に就任。会では、「古文書による郷土史研究講座」「文化財講演会」「現地研修会」等で歴史文化を学び、郷土愛としての小笠原長次公墓前祭、島田虎之助顕彰剣道形大会(2年毎)、宇賀神供養祭(随時)等を実施しています。

昨年の太田さんは、大河ドラマ「軍師官兵衛」ブームで、吉富町に隣接する中津市で月に十数回、ボランティアガイドとし

ても活躍。また軍師官兵衛、城井谷がらみの地元関連の講演会を中津市〜北九州市で5回実施と引張りだこでした。太田さんがガイドで留意している点は、時間の厳守・ガイド内容は簡潔に・おもてなしの気持ちだそう。ガイドでは、観光客の地元と吉富町・中津市との接点(例えば、長崎なら蘭学関連やシーボルトとお滝さん、熊本なら細川氏等)を話題にし、和やかな雰囲気を作り出すことに努力されているとのこと。そして、観光客から歴史名所や城下町の景観・街並み等が称賛され、再度訪ねたいとの感想や、ガイドに対する感謝の言葉を頂いた時は大変感激するそうです。

これからも郷土の歴史を探索しながら、郷土愛を培い、文化財を後世に継承するランナーでありたいとの太田さんの想いは、「小さなまち(吉富町)にあふれる輝き」を招くことでしよう。

レポーター/青ガエル



▲天仲寺山で行われる小笠原長次公墓前祭

応援団イチオシのおすすめイベントをご紹介します。

けいちく春みつけ

荊田町



神代帝都考研修ツアー

■日程:5月12日(火) ■時間:9:30~12:30
■場所:荊田町西部公民館周辺
■参加費:300円保険代他(ランチ代は参加者)
■受付:4月2日~5月7日9:00~17:00(休:水・日)
■定員:15名(最少催行人員5名)
西武公民館で挟間畏三・神代帝都考の研修会後ゆかりの地巡り(一部車で移動します)
希望者は浄土院「トンボ」でランチ&懇談会
◎荊田町観光協会 TEL.093-434-5560

みやこ町



第10回花しょうぶまつり

■日程:①6月6日(土)②6月7日(日)
■時間:①10:00~20:40(予定)②10:00~16:00(予定)
■場所:みやこ町花菖蒲公園
花菖蒲公園では、約30種・3,000株・10,000本の花菖蒲を鑑賞することができます。当日は、ステージイベントや昨年好評を頂いた「夜会」を公演予定で、その他にも、みやこ町の特産品販売や様々な出店もあり、一日楽しんで頂ける内容となっております。
◎みやこ町産業課商工観光係 TEL.0930-32-2511

豊前市



大富神社神幸祭(八屋祇園)

■日程:4月29日(祝水)~5月1日(金)
■場所:豊前市八屋地区
歴史ある春の大祭。各町自慢の船、山車がお旅所へ入る様は男壮です。30日夜・鉦(かね)の競演で祭りは最高潮に!! 同時開催「宝福寺山つつじ祭り」もお楽しみ下さい。
◎豊前市まちづくり課 観光振興係 TEL.0979-82-1111

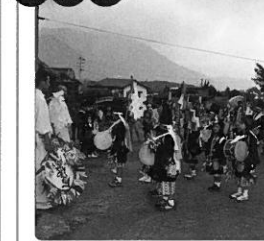
吉富町



第4回よしとみ70kmウォーク

■日程:5月23日(土)~24日(日)
■時間:23日21:00スタート~24日15:00まで
■場所:吉富フォーユー会館(スタート、ゴール)
吉富フォーユー会館をスタートし、大分県の中津市・宇佐市をまわって、豊前市・行橋市をグルッと回って吉富町に戻ってくる71.6kmのコースです。
◎吉富町体育協会事務局 TEL.0979-22-1978 (大会専用電話 5月29日まで開設)

行橋市



入覚念仏衆

■日程:5月3日(日)
■時間:11:00~16:00(予定)
■場所:五社八幡神社・明見寺(行橋市大字入覚周辺)
国の平和や安全、豊作などを祈願する祭り、入覚神幸祭の時に奉納。神幸祭の行事としては珍しく、神社のみならず、寺にも奉納します。
◎宮下義幸 TEL.090-2587-5864

築上町



龍城院柴燈護摩大祭

■日程:4月19日(日)
■時間:8:00~ 護摩焚きは12:30以降
■場所:築上町真如寺・龍城院特設会場
1998年から毎年続いている行事。行者と有志が菩提に参拝して龍城院に戻り、先住先亡尊霊法要、諸神祈禱の後、特設会場に移動、柴燈護摩を始める。添え護摩に祈願を託し、火渡りで無病息災祈願をしてみませんか。屋敷、特産品等の販売もあります。
◎龍城院柴燈護摩大祭実行委員会 TEL.090-3463-8074

上毛町



松尾山のお田植祭

まつのおさん
■日程:4月19日(日)
■時間:12:00~14:00
■場所:松尾山三社神社
天下泰平、五穀豊穡を祈る「松会行事」のひとつで、稲作の所作を演じる「田行事」、鉦や長刀を使った「刀行事」の他、笛や太鼓、ピンササラを使って踊る「色衆楽」などが演じられます。
◎上毛町教務課文化財保護係 TEL.0979-72-2111

京築神楽情報



京築神楽定期公演

■日程:6月21日(日)
■時間:13:30~15:30(予定)
■場所:京築神楽伝統文化会館(豊前市大字八屋1776-2)
平成23年度からスタートした定期公演も、これまで3,000名のお客様にご来場いただいています。京築地域の財産である神楽の優雅で躍動感あふれる舞をお楽しみください。
◎京築神楽伝統文化会館 TEL.0979-53-9535

① 挟間畏三

神代帝都考を著述した偉大な国学者 荊田町

1842(天保13年)~1911(明治44年)荊田町岡崎生まれ。私塾水哉園に入門し、広瀬淡窓にも師事。「神代帝都考」を刊行し、序文を末松謙澄が執筆しました。森鷗外「小倉日記」には「神代帝都考を著わしたるもの…」と記述されています。

③ 末松謙澄

明治のマルチタレント 行橋市

1855(安政2年)~1920(大正9年)行橋市前田生まれ。水哉園に学び漢学と詩文を習得。上京し新聞記者になり、伊藤博文と知り合い役人となりました。日本で初めて「源氏物語」を英訳。博文の次女と結婚後、政界に出て通信大臣を務めるなど多彩な才能を発揮しました。

⑤ 竹下しずの女

俳誌「ホトギス」に異彩を放った女流俳人 行橋市

1887(明治20年)~1951(昭和26年)行橋市中川生まれ。師範学校を卒業し、国語教師をしながら30才で俳句を学びました。33才で出産して詠んだ句「短夜や 乳ぜり泣く児を 須可捨乎焉乎(すてつまをを)」や「緑蔭や 矢を獲ては鳴る 白き」が「ホトギス」の巻頭を飾りました。

⑦ 小宮豊隆

夏目漱石小説「三四郎」のモデル みやこ町

1884(明治17年)~1966(昭和41年)みやこ町犀川久富生まれ。豊津中学校(現県立育徳館高校)を卒業して東京大学へ進み、ドイツ文学を学びました。夏目漱石と生涯にわたる師弟関係を結び、漱石を世に広めた漱石研究の第一人者です。小説「三四郎」のモデルとされています。

⑨ 内野東庵

村おこしを先駆けた医者 築上町

1841(天保12年)~1926(大正15年)築上町本庄生まれ。「医は仁術」を実践。医療福祉のため本庄の雪穴、萱切トンネルを掘削。みかんの栽培、樺の植樹、大楠の苗の移植など地域の産業、住民の生活向上に貢献しました。

⑪ 大河内傳次郎

昭和の時代劇大スター 豊前市

1898(明治31年)~1962(昭和37年)豊前市大河内生まれ。数々の名作の主役を演じました。「丹下左膳」では、豊前なまりの「シェイはタンゲ、ナはシャゼン(姓は丹下、名は左膳)」の名セリフが一世を風靡。没後に功績をたたえられ、ブルーリボン賞・特別賞が授与されました。

⑬ 島田虎之助

勝海舟の剣の師匠 吉富町

1814(文化11年)~1852(喜永5年)豊前中津藩の剣豪。夜になると吉富町の天仲寺山に登り剣法の修練に精進。後に江戸に出て道場を開き、「剣心一致」の精神は門下生となった勝海舟にも大きな影響を与えたと伝えられています。この精神は、氷川きよしの「一剣」に歌い込まれています。

② 小畑秀吉

荊田町発展の礎を築いた先駆者 荊田町

1880(明治13年)~1963(昭和38年)荊田町中町生まれ。豊国セメント(現三菱マテリアル)株式会社をはじめ、数々の会社の設立、業界発展に寄与。荊田港修築等にも参画。また、私財を投じて学校法人・小畑学園(現県立荊田工業高校)も創設しました。

④ 村上弘山

多くの逸材を育てた漢詩の達人 行橋市

1810(文化7年)~1879(明治12年)幕末から明治初期にかけての漢学者であり、詩人、教育者でもあった彼は、26歳で私塾「水哉園」を開き、その人徳や名声をたてて入門した塾生は約3,000名。末松謙澄をはじめ多くの逸材を生み出しました。

⑥ 吉田学軒

元号「昭和」を創案した漢学者 みやこ町

1866(慶応2年)~1941(昭和16年)みやこ町勝山上田生まれ。水哉園に学び上京、米国に数年間遊学。帰朝後、宮内省官僚として元号「昭和」を「書経」の一文「百姓昭明、協和萬邦」から創案。顕彰碑が生誕地近くにありま。

⑧ 藏内次郎作

旧藏内邸の主、全国有数の石炭王 築上町

1847(弘化4年)~1923(大正12年)築上町上深野生まれ。先祖は宇都宮氏家臣という。長男の保房とともに旧田川郡荆田村で炭鉱経営を始め、大正8年(1919年)に全国6位の炭鉱に成長。巨額の寄付を惜しまず、県立田川高校、旧築上中部高校(現県立青豊高校)の設立に寄与し、衆議院議員も5期務めました。

⑩ 恒遠醒窓

幕末人に影響を与えた教育者 豊前市

1803(享和3年)~1861(文久元年)豊前市栗師寺生まれ。日田の「咸宜園」を開いた広瀬淡窓の弟子で、私塾「蔵春園」を開塾。陽明学、古学派の流れに属し、老荘の思想も取り入れ、子弟の教育に力を注ぎました。吉田松陰に影響を与えた勤王僧・月性も門下生で、久坂玄瑞も訪れた記録が残っています。

⑫ 木部シゲノ

NHK「雲のじゅうたん」のヒロイン 豊前市

1903(明治36年)~1980(昭和55年)豊前市八屋生まれ。「普通家庭の女として生涯を終わりたい…」と飛行家を目指し、昭和2年二等飛行操縦士第一号取得。県内各地で講演や曲芸飛行を行う。男装の麗人としてプロマイドも発行されました。連続テレビ小説「雲のじゅうたん」のモデルのひとりと言われています。

⑭ 末松偕一郎

夏目漱石の小説「三四郎」のモデル候補 上毛町

1875(明治8年)~1947(昭和22年)上毛町西友枝生まれ。小倉藩医の三男で、豊津中学(現県立育徳館高校)に学び、東京大学を卒業後に内務省や台湾総督府に勤め、広島県・滋賀県知事を経て、衆議院議員、鉄道政務次官、別府市市長等を歴任。一生を地方行政につくしました。小説「三四郎」のモデル候補の一人で、漱石のメモにも記載が残っています。

2015年・春

